

# 気になる病気の基本の“き”

ドクターからの  
メッセージ

## 第3回 糖尿病網膜症

予防には定期的な検査や生活習慣の見直しを

国立療養所菊池恵楓園 眼科医長 近藤晶子



### 糖尿病網膜症は日本人の中途失明原因の第2位

糖尿病網膜症は、糖尿病の慢性合併症の一つで、腎症・神経障害と並んで糖尿病の三大合併症といわれます。初期のうちには自覚症状がないために知らないうちに進行し、治療が遅れば失明に至ることもあり、近年では日本人の中途失明原因の第2位となっています。網膜症の発症は、糖尿病になってからの期間と血糖のコントロール状態に関係し、通常5年以内に20%、10年で30%、20年で70%に起こるとされています。



### 網膜のつくり

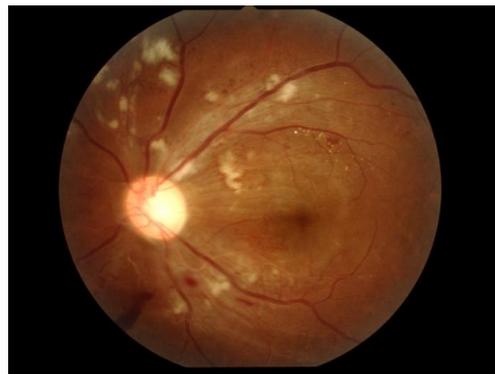
網膜は、眼球の内壁を覆う薄い膜で、光・色を見分ける働きの視細胞が敷き詰められ、そこからの情報を伝達する神経線維や細胞が並んでシート状になり、それを支える細胞や栄養する毛細血管などから成り立っています。眼の正面から一番奥の部分の網膜の中心領域は黄斑と呼ばれます。1.5 mm径の範囲に感度の高い細胞が集まっており、黄斑の障害は視力低下を決定づけますが、逆にここに障害が及ばないうちは、周りの網膜に変化があっても視力低下は自覚されにくいのです。



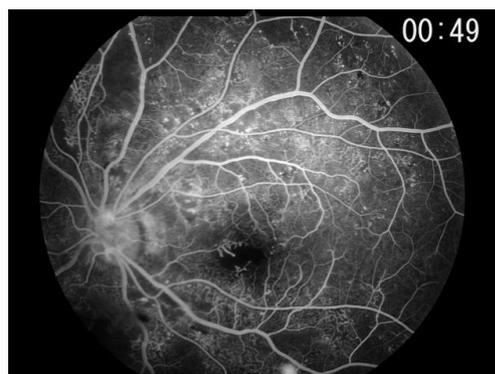
### 糖尿病における細小血管の障害

糖尿病により高血糖にさらされ続けた網膜の血管は、壁が傷ついて血液の成分が滲み出したり、瘤のように膨らみ破れたり、内腔が詰まったりして、網膜に出血や白斑を生じダメージを与えます。黄斑部に近い微細血管の漏れは黄斑に液がたまって浮腫となり、視力が落ち物がゆがんで見えます。網膜の血流が悪くなり酸素不足の部分が生じると、組織から血管を造成させる因子が産生され、新生血管という異常な脆い血管が出てきて、それが破れてまた出血するという悪循環に陥ります。網膜の表面を破って眼球の内側に流れ込んだ出血は、本来血液と混じることのない眼球内容の硝子体と反応し硬い膜となります。この増殖膜が収縮して網膜を引きはがし、失明に至る網膜剥離を起こすのです。網膜の酸素不足に関係して起こる血管新生緑内障という病気も失明につながります。(図1、2)

図1. 糖尿病網膜症の眼底写真



視神経から四方に伸びる網膜血管の周囲に、綿の散在がみられる。白斑、小さな出血の散在がみ



造影写真。スムーズな線は正常血管で、シダの葉のように分枝するのは異常血管。小さな点状は微小血管瘤

